

第15回国際獣医放射線学会への参加

宮 原 和 郎

動物医療センター・教授

1. 目 的

国際獣医放射線学会の日本理事として理事会に出席し、国際獣医放射線学会の運営に参画し、参加学生の発表を指導する。

2. 期 間

平成21年7月25日～平成21年8月2日

3. 場 所

ブラジル，リオデジャネイロ，ブジオス

4. 内 容

帯広畜産大学後援会の助成を受けて第15回国際獣医放射線学会へ参加してきた。国際獣医放射線学会は3年に1回開催される国際学会で、第12回大会は2000年に故廣瀬恒夫帯広畜産大学名誉教授を大会長として帯広の北海道ホテルで約80名の海外からの参加者を迎えて開催された。私は、その当時アジア地区理事を務めていた廣瀬先生に代わり、その3年後に開催された南アフリカ大会から日本理事を務めている。国際獣医放射線学会は3年に1回というペースからもわかるようにいわゆる研究の最先端を活発に議論することも1つの目的であるが、さらに世界各国を代表する獣医放射線学の教員が一同に会して友好を深めるとともに若手研究者の育成や発展途上国における獣医放射線学教育の底上げを行うことも目的としている。したがって学会運営においても、旅費を含めた学会参加費を支給して発展途上国の研究者を大会に参加させ、発表させるとともに各国の獣医放射線学の専門家と直接話をする機会を与え、留学を含めたステップアップの可能性と世界の獣医放射線学の状況を実感させることが1つの大きな役割となっている。この目的で毎回2～3名の研究者が招待されているが、今回は事前の理事会審査で、ルーマニア（ブカレスト）、チリ（サンチャゴ）、ブラジル（サンパウロ）からそれぞれ1名の研究者が招待された。

今回の大会には、ブラジル以外からの参加は25カ国から137名とのことであったが、日本からは我々のグループと獣医教育・先端技術研究所の宮林先生のグループの6名のみでの参加に止まった。私は後援会のご理解で参加することができたが、開催地が日本からはいわゆる地球の真裏と非

常に遠かったことに加えて、新型インフルエンザの発生で参加を控える研究者が多かったことが、参加者を少なくした理由と思われる。今回の大会長はブラジルの開業獣医師である Edgar Sommer 先生であり、彼とは1991年のオランダ・ベルギー共同開催の時から知り合いである。いわゆるラテン系の陽気な人柄であるが（写真1）、今大会の開催誘致には帯広開催（2000年）以前から非常に苦勞されていたことから、本当に今回の大会開催を喜んでいて。

第1回大会はアイルランドのダブリンで開催され、私は1988年の第8回大会であるオーストラリア、シドニー大会から廣瀬先生とともに参加するようになった。この時の大会長が現在記録保管担当を努める Andrew Wood 先生であり、帯広にも何度から来られたことがある（写真2）。今回、私は本学三好雅史先生と岐阜大学大学院連合獣医学研究科に所属する西村麻紀君と一緒に参加した。西村君の発表は彼女の博士論文テーマである「育成乳用牛の発育過程に伴う乳腺の超音波学的研究」であるが、Wood 先生はいつもながら非常に紳士であり、親切丁寧にわかりやすく西村君の発表について質問と共に助言を与えてくれた。西村君も初めての海外発表ではあったが、自分の研究テーマについて世界の獣医放射線学の著名な研究者と直接話をする機会を得たこと、さらに世界各国の研究者の発表を見聞きすることができ、1週間ほどの短い間ではあったが多くの研究者や学生と寝食を共にして様々な話をする事ができたことは、彼女の今後の研究活動において非常にすばらしい経験になったことと思う。

開催国の決定は理事会（写真3）における立候補国のプレゼンテーションとその後の投票において決定されるが、歴代、主要理事が出ている国が開催国として選定されてきたことから過去にはほとんど欧米諸国で開催されてきた。すなわち1968年アイルランド（ダブリン）に始まり、1970年スウェーデン（ストックホルム）、1973年米国（ワシントンDC）、1976年英国（ケンブリッジ）、1979年ドイツ（ミュンヘン）、1982年米国（カルフォルニア・デイビス）、1985年アイルランド（ダブリン）、1988年オーストラリア（シドニー）、1991年オランダ・ベルギー共同開催、1994年米国（フィラデルフィア）と続いてきた。しかし、1997年イスラエル（エルサレム）はイスラエルの理事を長年務めた Burgai 先生によって、



写真1 大会長の Edgar Sommer 先生と共に

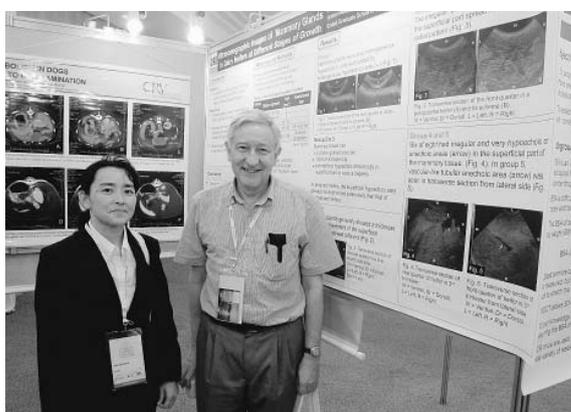


写真2 Andrew Wood 先生と西村君（ポスター前で）



写真3 2007～2009理事会メンバー

2000年日本（帯広）はアジア理事であった廣瀬先生によって開催された。その後、2003年南アメリカ（オンダーステポート）、2006年カナダ（バンクーバー）、2009年今回のブラジル（リオデジヤネイロ・ブジ奥斯）と続いている。大会開催中の理事会では次回2012年の開催国について審議されたが、今回のブラジル大会が1つのターニングポイントになっているように思われた。立候補したトルコ国ウルダグ大学の Deniz Seyrek-İntaş 先生は欧米の獣医放射線専門医の資格を持つが、現在理事ではなく、しかもトルコは30年前の日本同様に獣医放射線学というセクションは確立されておらず、ほとんどの大学で外科の教員が読影を行い、放射線の教育を行っている現状にあることを説明した上で、トルコの獣医放射線学レベルの底上げを行うための起爆剤として是非とも学会を開催させてほしいと熱く勧誘した。対抗馬として欧米の国も出ていたが、投票の結果、今回はトルコと決定し、さらに本学会の方向性が明確になったような気がした。私は次回トルコにも日本理事として参加する予定であるが、今回は多くの日本の研究者・学生と共に参加したいものである。

末尾ながら、今回の学会参加に対して助成いただきました帯広畜産大学後援会に心より感謝申し上げます。

キーワード：学会参加，IVRA，国際獣医放射線学会，ブラジル